

日産、タイに全面移管

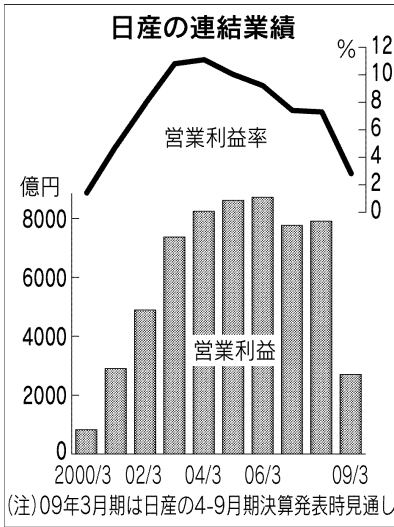
業績回復へ新車開発2割減

主力車「マーチ」生産

日産自動車は業績の悪化を受け、収益改善に向けたリストラに乗り出す。主力小型車「マーチ」の生産をタイに全面移管して原価を三割削減、円高を活用して日本に輸入する。今後五年間の新型車開発件数も二割削減、来年度の役員報酬も大幅に減らす方針だ。日本車メーカーで主力量販車の生産を海外に全面移管するのは初めて。一ドル190円前後の円高と世界的な販売不振を背景に、事業構造を抜本的に転換する。

(関連記事11面に)

役員報酬もカット



(注)09年3月期は日産の4-9月期決算発表時見直し

日産は現在マーチを追浜工場(神奈川県横須賀市)で全量生産して国内専用車として年四万七千台程度販売している。二〇一〇年の全面改良に合わせて国内生産を打ち切り、日本での販売分は全量タイから輸入する。自動車業界では一部車種を海外から輸入するケース

はあったが、主力量販車四万台から一〇年に二十万台に増やす予定で、この全面移管は例がない。新型マーチは仏ルノーと共同開発する車台を採る計画だ。車体構造を見直し、日本とアジアの新車で販売する予定。タイ子会社「サイアム日産自動車」の生産能力を年十

は未定だが現行より安く、新興国生産でコストを抜本的に見直す。足元の環境悪化に対応した緊急施策も実施する。今年度から五年で新型車を六十車種投入する計画だったが、二割少ない四十八車種に減らす。

タイには燃費性能に優れた小型車生産への優遇税制があり、移管先に決めた。追浜工場は一〇年から電気自動車や新開発の小型車を生産し、生産規模を維持する考え。日産は欧州で販売している「マイクラ」の次期モデルも一〇年に英国からインドに生産を移す計画で、新興国生産でコストを抜本的に見直す。インドやロシアの新工場も稼働延期や規模縮小に踏み切る。取締役の報酬と賞与も削減する。今期末の賞与はゼロの方向で検討、四月以降は報酬も大幅削減する。削減率は今後詰め

る。日産は〇八年三月期、連結営業利益を当初、前
取締役十人に約二十二億 円に下方修正した。その
円の報酬を払った。 期比三割減の五千五百億 後も販売不振や円高が止
日産は〇九年三月期の 円と見込んだが、十月の まらず、営業赤字に転落
決算発表時に二千七百億 する可能性もある。